

町制施行70周年記念事業 由紀さおりさん「童謡で伝える会」



contents

- P3 町制施行70周年記念事業 由紀さおりさん「童謡で伝える会」
- P4 令和5年度舟形町の決算 ふながたさんちの家計簿
- P8 便利さを実感！デジタルのちから
- P10 ふなトピ
- P12 まちかど掲示板
- P13 地域おこし協力隊コラム「舟形見聞録」
- P14 新刊書の紹介、舟形文芸ひろば
- P15 舟形産直だより、舟形まんぶく物語、カメラアングル
- P16 町制施行70周年記念式典を開催します



表紙の紹介

町制施行70周年記念ロゴマークは、鮎と縄文の女神のモチーフを取入れ、「緑と青」は清らかな山河を、「黄と橙」は歴史と文化を象徴する縄文の女神の赤褐色をイメージして配色し、多くの人に町の魅力を伝える想いが込められています。



想いは未来へ

舟形町は町制施行70周年を迎えます。

舟形村と堀内村が「人情風俗習慣において同じうする両村の将来発展のため」と、昭和29年12月1日に合併し、舟形町が誕生いたしました。以来70年、エネルギー革命により町の主要産業だった亜炭産業が衰退、同じく農業も開田増産から一転して減反など農業政策の変遷、豪雨や豪雪といった自然災害など激動の時代を乗り越え、「両村の将来発展のため」と舟形町の継続に尽力していただいた先人たちに深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

また、舟形町には西ノ前遺跡から出土した4,500年前縄文中期の土偶、国宝「縄文の女神」があります。悠久の縄文時代から豊かな自然の中で歴史や文化を連綿と繋い

でこられた数多の先人たちに重ねて敬意と感謝を申し上げます。

現在の私たちは、先人たちに感謝と敬意をほらいつつ、その想いを10年、50年、100年先の未来へと繋いでいく責任があります。とはいえ、人口減少や少子化など難題が山積し、解決策を見つけないのは容易ではありませんが、私たちは今を一生懸命に生き、町民の幸福のため「住んでいく人が誇れるまちづくり」を進めてまいります。

人口が減少してもデジタルを活用して「先進的少数社会」を構築し、町民ひとり一人がまちづくりを考え行動する「にぎやかな過疎社会」をつくり、「わくわくするような未来」を子どもたちに繋いでまいります。

森 富広



10月18日、舟形ほほえみ保育園で町制施行70周年記念事業の由紀さおりさん「童謡で伝える会」が開催されました。

この事業は、由紀さおりさんを招き、歌う機会が少なくなっている童謡を通じて、親子のふれあいの大切さを保護者の方に伝えることを目的に実施されました。

由紀さんは、女優として映画、ドラマへ出演、司会、バラエティなどで幅広く活躍されています。また、昭和61年から姉の安田祥子さんとともに、美しい日本の歌を次世代に歌い継ぎたいと活動を続けています。これまでに多くの保育園や幼稚園などで「童謡で伝える会」を実施され、保護者の方へ童謡を通じて由紀さんの思いを伝えていきます。

当日は、園児の保護者約100名が参加し、園児と一緒に「とんぼのめがね」などを歌ったほか、由紀さんは「大きな古時計」を歌われました。最後は園児、保護者を含めた参加者全員で「手のひらを太陽に」を歌い、会場は童謡の美しいメロディーに包まれました。

参加した保護者は、「園児たちと由紀さんの歌声に心が引き込まれました。また、子育てをする中でも、美しく、そして優しい日本語を意識しながら子どもと接していきたい」と話していました。

▼問い合わせ先
舟形町教育課学事係 ☎(32)23379